ソフトボール静岡
静岡県ソフトボール協会
発行部数 3,450（季刊）
発行／静岡県ソフトボール協会
（掛川市中央1丁目10番9号）
発行責任者／竹山　裕
編集責任者／片多　泰
FAX 0545（21）4491

NAIGAI SOFTBALL
内外ゴム株式会社

桒原副会長はじめ、三氏が終身資格を授与

日本ソフトボール協会が永年審判員・記録員として大会運営に携わった人達に贈る、終身資格の称号を桒原副会長（記録員）、西浦副理事長と静岡支部の市川三郎氏（審判員）の三人に付与することを内示。

終身資格の称号制度は平成十年、審判委員会より永年審判員として尽力され、今後も指導的役割を担っていける方に何か「称号を与えたい。」と、理事会に提案し承認され設置。最初の終身審判員の誕生は平成十一年。終身資格付与者は今回の35名を含め一七三名の方が授与された。

また、終身記録員の称号は、今年新たに設置され、26名の記録員が授与された。

授与者の横顔（敬称略）

桒原貞秋（掛川支部）

昭和三十五年から県協会記録委員として協会運営に参加。県協会記録委員長、昭和五十九年日本協会記録委員、平成六年から四年間同記録委員長。静岡協会理事長を歴任し、現在副会長。

「他県より一歩リードした記録委員会を組織したいとの思いで、多くの記録員と共にやってきた。今回の授与はそうした仲間達と、私を支えてくれた人達のおかげと、感謝の気持ちでいっぱい。」

西浦壽溶（浜松支部）

昭和三十三年に選手としてプレーをする傍ら、互審のため審判員資格を取得したのを契機に、協会運営に携わる。

以降、平成四年から県協会審判委員長、平成八年から審判員認定委員長。現在県協会副理事長。

「終身審判員の称号をいただいたのは、多くの先輩、同僚、後輩に支えられて、今日までやってこれたおかげと、感謝している。」

市川三郎（静岡支部）

公式野球の審判員から昭和四十五年にソフトボール審判員として協会運営に参加。静岡県ソフトボール協会認定委員。静岡支部審判委員長を歴任。現在静岡支部副会長。

「私でよかったのか恐縮している。これも皆さんの支援あってのことです。今後は皆さんの手助けになるよう努力したい。」

大会一のチームワークで

第三回 都道府県対抗中学生大会

三月二十四日から島田市で開催された、第三回都道府県対抗全国中学生ソフトボール大会には全国から男女合わせ59チームが参加。開会式は生憎の雨で、市民会館内での実施となったが、大会後半は好天に恵まれ、出場した選手たちは春の陽射しを受け、伸び盛りの力を惜しまずプレーに置き換え、溌剌とした試合を展開。応援に駆けつけた父兄や観客を心酔させた。

中部選抜 逆転で初戦敗退

静岡県から県選抜と中部選抜の2チームがエントリー。中部選抜は前半6対1と優位に展開したが、後半に逆転され6対7で破れ、初戦で敗退。

県選抜チームは持ち味である「チームワークの良さ」（河合監督）で、順調に勝ち、準決勝まで勝ち進んだが、オール埼玉に1対2で惜敗。決勝進出こそ逸したが、第一回大会に続いて、三位入賞を果たした。

大会結果は投打に安定したオール埼玉が優勝。準優勝は栃木選抜。

▽県選抜チームの戦跡

【一回戦】県選抜6―0福井県選抜

【二回戦】県選抜7―5青森県選抜

【三回戦】県選抜3―1鹿児島県選抜

【準々決勝】県選抜1―0京都選抜

【準決勝】

オール埼玉	0	0	0	0	0	1	1	2
県選抜	0	0	0	0	0	0	1	1

静岡・高野、埼玉・中村、両投手で中盤の五回まで共に無得点。試合が動いたのは六回表。埼玉は先頭打者の三塁打と野選で一点を先取。七回表にも安打と四球と敵失で加点。静岡も土壇場の七回裏、一死一塁で六番・松下の三塁打で一点を返し、次打者の左翼邪飛でホームを狙ったが憤死で併殺。

春の陽に輝く銅メダル！

大会No.1のチームワークで銅メダルの静岡県選抜

心をひとつにして

県選抜監督　河合司

「今まで以上の結果を残そう、合言葉は全国制覇！」を活動目標として行ってきた、県選抜チームの活動も、全国三位入賞で終わった。これも協会の皆様をはじめとする、多くの方々の支援の御かげと心から感謝いたします。「メダルは銅でも、チームは日本一」と新聞記事に掲載されたように、入賞の原動力は選手一人ひとりが自分の役割を自覚し、心を一つにしてプレー出来た事だと思う。

大会を通じ、選手から「諦めない心」の大切さを教えられた。各チームからお預かりした、大事な選手だけに配慮することも多々あったが、個々の力を見極める事の大切を改めて確認できた。

来年度から三重県開催となり、新たな課題もあるが、スタッフも一丸となって、県の技術力向上、底辺の拡大に努めたい。最後に、「選手、保護者のみなさん、感動をありがとう。」

ソフトボール美人 ▶58

吉澤千恵子監督（富士レディース）

今年から富士レディースの監督に就任した彼女は、ソフトボール競技の盛んな兵庫県生まれ。野球好きな兄の影響で、小さい頃から町内の大会でソフトボールを楽しんだ。それだけに、所属する富士支部内の次代を担う、小・中・高校生たちのソフトボール離れを気遣う。

中学時代に陸上競技を経験した彼女にとってソフトボールは、「大勢の仲間が出来、孤独感を味わうことが無い。」と、個人技が主の陸上とは違う良さがあると。

「近い将来、地元静岡県で開催される全国エルダー大会で優勝したい。」と、大きな夢を。そのために選手が怪我をしないよう、練習日の雨天時には、エアロビックスや温水プールでのストレッチ等を行い、体力維持に細心の注意を払っている。

「監督は初めての経験。選手時代にやりたかった事を、選手仲間と出来るのが楽しい。」と指揮官としての醍醐味を語る。

日頃から心がけていることは「挨拶・時間厳守・心配り」。このことは、以前、山梨県身延町で開催された、アテネ五輪の宇津木監督の講演から感じ取ったものだと言う。

最後に、支部協会への要望として、「優勝旗変換時に戴く、レプリカのトロフィーよりもボール一個の方がチームにとっては有り難い。」と、ママさんチームの監督らしく現実的で、チャッカリした主婦の一面を覗かせた。（片多）

取材ノート

大会を支えるシルバー軍団

都道府県対抗

都道府県対抗全国中学生大会には、地元島田支部をはじめ大井川支部から、県シニアチームで活躍する75名のシルバーの人達が、トンボ片手にグラウンド整備にボール拾い、スコアボード書きとBSOの点滅操作にと、各球場で汗を流しながら裏方に徹し、大会を盛り上げた。

「島田での大会がいい思い出となるよう、お手伝いしている。」と、シルバー軍団をまとめる、藤野さんは日焼けした顔に満面の笑みを浮かべながら話す。

また、「自分の孫（娘）のような、選手たちのプレーから、パワーを貰っている。仕事は苦にならない。」と、大会日の全てに"出勤"している人も居た。

大会期間中、黙々とトンボを引くシルバーの人達の姿が、「どんな大会でも多くの人達が裏方で支えていることを忘れないで欲しい」と、プレーする中学生に語りかけていた。

全国大会を支えた"シルバー軍団"